

踏切手前 確実な「一旦停止」 左右の安全確認、先詰まりに注意

帯広市内の踏切で安全呼びかけ

踏切でひとたび事故が起きると

命にかかわる大きな事故につながり非常に危険です。

踏切の手前では必ず一旦停止するという基本を確実に守っていただきたい。

2019年05月14日 19時45分

踏切での事故を防ごうと、帯広市内の踏切でJR北海道などがドライバーに一時停止や安全確認の徹底を呼びかけました。

これは春の全国交通安全運動にあわせてJR西帯広駅近くの踏切で行われたもので、JR北海道や帯広運輸支局などからあわせて11人が参加しました。

参加者は車のドライバーに「車は踏切前で一時停止を徹底してください」などと声をかけながらリーフレットなどを手渡し、踏切手前での確実な停止や安全確認の徹底を呼びかけました。

十勝管内では、去年12月、清水町内の踏切で乗用車が特急列車の側面に衝突する事故が起きています。

JR帯広駅の駅長は、「踏切でひとたび事故が起きると命にかかわる大きな事故につながり非常に危険です。踏切の手前では必ず一旦停止するという基本を確実に守っていただきたい。」と話していました。

北海道内 訪日客事故 レンタカーで急増

日本の交通ルールや右ハンドルに慣れていないことが背景

2019/05/14 13:50

夏の観光シーズンを控え、レンタカーで道内を巡る外国人観光客の事故増加が懸念されている。

当事者の中で過失が最も重い「第1当事者」となる人身事故は昨年まで3年連続で20件を超え、死亡事故も発生。

今年も12日現在、既に15件に上っている。

日本の交通ルールや右ハンドルに慣れていないことが背景にあるとみられ、道警は警戒を強めている。

■路側帯走り衝突

「片側2車線だと思い込み、高速道路の路側帯を走っていた」。

3月下旬、上川管内占冠村の片側1車線の道東道で、台湾から訪れた20代の男性ドライバーは勘違いして路側帯を走行中、左端の縁石にぶつかり、はずみで対向車線の除雪車に衝突したという。男性と同乗の女性はいずれも腕を折るなどの重傷を負った。

道警交通企画課などによると、外国人観光客が第1当事者となったレンタカーの人身事故は、14年まで毎年10件以下でほぼ推移。

それが15年に15件に急増し、16年に20件を超え、17年には27件に達した。